



国臨協関信

HPアドレス [http:// kanshinshibu.org](http://kanshinshibu.org)

平成24年 8 月

事 務 局 〒162-8655 東京都新宿区戸山 1-21-1
国立国際医療研究センター病院中央検査部内
発 行 者 浅 里 功
編集委員 峰岸正明・小池容子・長井俊道
印 刷 所 東洋印刷株式会社
☎03-3352-7443

第40回国臨協関信支部記念学会

日時：平成24年9月1日(土)

場所：国立国際医療研究センター 国際医療協力局



過去の学会で使用された備品

(左から演題番号、ランプ、ブザーボタン、スライドプロジェクター)



【学会会場案内図：国立国際医療研究センター】



■地下鉄

- 都営大江戸線：都営大江戸線 若松河田下車徒歩5分
- 東京メトロ(東西線)：東京メトロ(東西線) 早稲田下車徒歩15分

■都営バス

- 宿74系統：新宿駅から医療センター經由女子医大行き
国立国際医療研究センター病院前下車 徒歩0分
- 橋63系統：大久保・新大久保から新橋行き
国立国際医療研究センター病院前下車 徒歩0分
- 橋63系統：市ヶ谷・新橋から大久保行き
国立国際医療研究センター病院前下車 徒歩0分
- 飯62系統：飯田橋・水道橋から新宿車庫行き
若松河田下車 徒歩5分



COOL BIZ宣言

学会には、どうぞ涼しげな軽装でご参加ください。
支部役員もノーネクタイで務めさせていただきます。

第40回 国臨協関信支部記念学会

特 別 講 演

「臨床検査の歩みを振り返り、期待する技師像」 ＞ チーム医療の今昔？ ＜

元国立国際医療センター 臨床検査技師長

下 杉 彰 男 先生



【講師プロフィール】

〔学 歴〕

北里衛生科学専門学院卒業

〔職 歴〕

昭和25年 4月に国立横浜病院研究検査科に勤務し、その後、東京オリンピックを機に昭和38年東京空港検疫所に出向。検疫官、検疫衛生専門職として昭和42年には、東京検疫所大船渡出張所に配置換えとなり公衆衛生を学ぶ。

昭和45年国立療養所中野病院に転任、国立横浜病院を経て、10数施設の併任を経験し、昭和51年に国立国府台病院の臨床検査技師長となる。昭和52年に関東信越地方医務局指導課・臨床検査専門官（6年余り）を併任。昭和62年国立精神・神経センター国府台病院となる。

昭和63年 4月に国立病院医療センター・臨床検査技師長となり、平成5年国立療養所中野病院の臨床検査技師長を併任する。平成5年10月に国立国際医療センターとなる。

平成7年3月 定年退職

平成9年に設立した国際協力事業団（JICA）「インドネシア南スラウェシ地域保健強化」のプロジェクトに参画、長・短期専門家として5年計画を完了する。

退職後は、臨床検査技師学校等で非常勤講師、現在に至る。

〔各種団体役員歴〕

厚生省臨床検査技師協会	常任理事、監査
	昭和47年～昭和54年
厚生省臨床検査技師長協議会	常任理事、監事
	昭和53年～平成7年
社団法人・日本臨床衛生検査技師会	常務理事
	昭和53年～昭和57年
千葉県臨床衛生検査技師会	会 長
	昭和57年～昭和59年
社団法人・日本臨床衛生検査技師会	副 会 長
	昭和59年～昭和63年
社団法人・日本臨床衛生検査技師会	会 長
	昭和63年～平成6年
財団法人・国際医療技術交流財団	常務理事
	平成元年～平成6年
社団法人・日本臨床衛生検査技師会	名誉会員
	平成7年～
社団法人・東京都臨床衛生検査技師会	名誉会員
	平成7年～
公益財団法人・黒住医学研究振興財団	評 議 員
	平成18年～

〔受 賞 歴〕

厚生省勤続30年表彰	厚生大臣	1981年
臨床検査業務に貢献	厚生大臣	1988年
日韓交流功労者表彰	大韓臨床病理士協会	1994年
福見秀雄賞	(財)黒住医学研究振興財団	1995年
功労者表彰	(社)日本臨床衛生検査技師会	1995年

国臨協関信支部第40回記念学会が開催されますことに心よりお祝いを申し上げます。この晴れがましい学会にお招きいただき大変うれしく思っています。

日進月歩の医学、医療の中で臨床検査もまた同様です。今日の関信支部の学会、研究会を拝見しますと、まさに充実した時代の先端を歩んでいると感じられます。国臨協関信支部の役員、会員の皆様の平素の精進が実ったものと、OBの一員として感無量です。このような伝統ある記念学会に、諸先輩を差し置いて演者として指名されたことは光栄に存じていますが、些か荷が重い感はありません。

しかし、この学会が40年の歴史を踏まえて「メディカルスタッフとの協働・連携を踏まえた臨床検査」と聞き、不肖、私にも縁があると感じ承諾をいたしました。

今の私は定年退職後17年あまりを経ている後期高齢者ですが、チーム医療については私自身の生涯の信念でもあり、62年間にわたり紆余曲折をしながら臨床検査一途に歩んできた体験のなかから、その時々を思いを、世相、医療、検査そして国臨協の歩みを重ねて振り返ってみたいと思います。

「温故知新」（古きをたずねて、新しきを知る。）

医療人として、私の好きな言葉です。

国立病院機構関係の臨床検査の歴史は、戦後の荒廃した時期の医療（公衆衛生）を支え、中央検査制度の発祥となり、その後の経済成長と国民皆保険制度の成立で、平均寿命の延長と、保健、医療、福祉の分野と共に急成長しました。更に臨床検査は、検査内容が多様化する中で自動化、システム化と効率化が進み、現在の中央検査部制度が確立されてきました。

この間、「衛生検査技師法」が制定され、1970年には臨床検査技師が誕生し、その後、東京・埼玉地区の技師長を中心とした「厚衛協」を発展的に解消し、1972年、新たに全国組織として「厚臨協」（現、国臨協）が結成され、順次、支部組織活動が始まり今日に至っています。

一方、私たちの職能団体として60年の歴史を有する（社）日本臨床衛生検査技師会があり、基本的な事業方針はマスタープランにより示されています。しかしながら会長が変わるとその方向性が変わり疑問を生ずることがあります。その点、国臨協は日本でも数少ない全国組織であり、基本的な活動方針が変わることなく日々進化し事業が受け継がれていることは、他の組織からも範とされているところです。これは国臨協、技師長協議会、更に臨床検査専門職が連携して事業を進めているからだろうと思います。

関信支部学会は、昭和48年9月30日に厚生省臨床検査技師協会関信支部第1回研究会（学会）として発足しています。私もこの時期、国臨協、関信支部活動とも深く関わってきた一人でしたが、今では古き考えの持ち主となってしまったようです。今回は、気楽に客観的な立場から医療人・臨床検査技師の将来像をわが臨床検査人生と重ね、私見として述べさせていただきます。

第40回国臨協関信支部記念学会日程表

会場名	5 階 総合受付	5 階 P C 受付	4 階 P C 受付	5 階 大会議室・第 1 会場	4 階 セミナールーム 第 2 会場	4 階 第 1 会議室 第 3 会場
8:30	学会 受付	P C 受付	P C 受付			
9:00		第 1 会場	第 2 会場 第 3 会場	《開会式》 (9:00~9:10) 《一般演題》		
9:30	8:30 ~ 14:00	8:30 ~ 11:00	8:30 ~ 11:00	1~3 免疫血清 4~7 生化学・一般 8~10 血 液 11~14 輸血・システム 15~17 その他 (9:10~11:47)	《一般演題》 18~21 生理 22~25 生理 26~29 生理 30~33 生理 34~36 生理 (9:10~12:05)	《一般演題》 37~40 細菌 41~43 細菌 44~47 細菌 48~50 病理 51~53 病理 (9:10~11:47)
10:00						
10:30						
11:00						
11:30						
12:00				昼 食 休 憩 (12:00~13:00) 地下1階 職員食堂（ビアンモール） ポールライト、カフェドクリエ、売店など ご利用ください		
12:30						
13:00				《特別講演》 (13:00~14:00) 「臨床検査の歩みを振り返り、期待する技師像」 ＞チーム医療の今昔？＜ 講 師：下杉 彰男 先生		
13:30						
14:00				休 憩 (14:00~14:10)		
14:30				《シンポジウム》 (14:10~16:00) テーマ：「メディカルスタッフとの協働・ 連携を踏まえた臨床検査」 座 長：松林 守 技 師 長（国立成育医療研究センター） 座 長：林 亮 技 師 長（NHO下志津病院） 薬 剤 師：前田 和俊 薬剤科長（NHO西埼玉中央病院） 管理栄養士：比嘉 並誠 栄養係長（国立国際医療研究センター病院） 診療放射線技師：安保 勝裕 主任技師（国立国際医療研究センター病院） 臨床検査技師：岩崎 康治 副技師長（NHO東京病院）		
15:00						
15:30						
16:00				休 憩 (16:00~16:10)		
16:30				《学会セレモニー》 閉会式 (16:10~16:40)		
17:00				《懇親会》 地下1階 職員食堂 （ビアンモール） (16:50-18:50)		
17:30						
18:50						

医療技術職員等新採用職員研修に参加して



NHO茨城東病院
磯 部 祥 子

平成24年5月23日～25日の3日間、国立病院機構本部講堂で開催された医療技術職員等新採用職員研修に参加させて頂きました。

初日の研修では講師の方から「国立病院機構の現状と病院職員としての心得」「労働時間・休憩・休暇」「新採用職員として必要なこと」についてお話を頂き、最後に職種ごとのグループに分かれて「患者サービスとは」というテーマで討議しました。独立行政法人国立病院機構の歴史や役割、組織図、就業規則など職員として知っておくべきこと、身だしなみや報告・連絡・相談のやり方を分かりやすく教えて頂き、「ハウレンソウ」をするタイミングやその内容、伝え方など具体的にイメージすることができました。グループ討議では活発な討議ができ、全員が納得のいく結論を出すことができました。

2日目は「患者さんの心に届く接遇コミュニケーション

ン」についての講義をして頂きました。この日の講義では他人の目線から身だしなみや挨拶、お辞儀、言葉遣いなどについて学び、自分がどう見られているかを考えました。例えば、お辞儀をして他人にお辞儀として認識されるには2秒以上頭を下げていることが必要だということ、笑顔は口角をあげることでなく目が笑っていないといけないなどです。そして、他人と接する時は、思いやりの心が前提としてあることが重要だと感じました。

3日目はグループ討議でした。何回もグループ討議を経験してきた成果もあり、流れを意識した討議ができました。3日間を通して学んだことを日々の業務において実践し、自分のものにしていきたいと思います。また、職場の仲間と気持ちよく働けるように感謝の気持ちを持って人と接し、NHOの一員であるという自覚を持って行動していきたいと強く感じました。

最後に、今回の研修を企画して頂いた関信ブロックの方々および専門職、講義して下さいった先生方、そして研修に参加する機会を与えて下さった施設の皆様に深く感謝致します。



NHO災害医療センター
菊 地 真 未

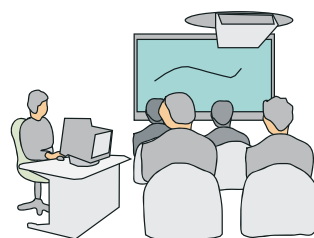
平成24年5月23～25日の3日間、国立病院機構本部講堂にて開催された医療技術職員等新採用職員研修に参加させて頂きました。参加者は私たち臨床検査技師だけではなく、他の医療職（薬剤師、診療放射線技師、臨床工学士、PT、OT、療育、栄養士）と事務職員の方も対象でした。

研修初日の午前中に総務経理課長から「国立病院機構の現状と病院職員としての心得について」職員課長から「労働時間・休憩・休暇」についての講義を受けました。午後からは「新採用職員として必要なこと」を7職種の医療職の先輩方が、自身の経験を通して感じたことや仕事をしていくうえでのアドバイス等を話して頂きました。職種別分科会では上條専門職から「社会人としてのマナーと心構え」についてお話をしていただき、その後、「患者サービスとは」をテーマに2グループに分かれて討議と発表をしました。私の班は、正確で迅速な結果報告、医療安全情報を周知し患者さんの立場に立った医療の提供が患者サービスにつながるのではないかと結論になりました。

2日目は、「患者さんの心に届く接遇コミュニケーション研修」という内容で桑田みか先生から講義をして頂きました。実際グループになって挨拶やお辞儀、電話対応等の演習も行いました。改めて自分自身の患者さんへの接し方、電話対応時の言葉遣いを見直す良い機会になったと思います。

3日目は、班別討議を行いました。与えられたテーマを討議・発表しました。普段接する機会の少ない職種の方とディスカッションをすることで、様々な目線からの意見を聞くことができました。今回の研修で学んだことを活かし、知識・技術の向上を常に目指す臨床検査技師として努力していきたいと思います。

最後になりましたが、今回の研修を企画していただいた関信ブロックの皆様および臨床検査専門職、ご多忙の中講義して下さいった先生方、そして研修参加の機会を与えて下さいました技師長はじめ検査科職員の方々に深くお礼申し上げます。



第 1 回国臨協関信支部主催研修会に参加して

第 1 部微生物部門ルーチンアドバイザー(R A)講演



NHO霞ヶ浦医療センター

大 澤 俊 之

平成24年6月9日(土)国立病院機構国際医療センターにて、国臨協関信支部主催の微生物研修会が開催されました。私は微生物検査に携わらないので日常どのように検査が行われているのか勉強したいと思いこの研修会に参加しました。

今日の内容は微生物検査技術で2名のRAの方にご講義いただきました。まず「若手および日常微生物検査に携わらない検査技師対象」として国立成育医療センターRAの渡辺靖主任技師より講義がありました。

検査を始める前に提出された検体が検査に適しているか不適なのかについて、塗抹検査の利点と欠点、塗抹標本作成のコツ、緊急検査で染色を行ってほしい検体、血液培養ボトルのチェック事項、抗酸菌染色などチェックポイントをまとめて発表していただきました。

グラム染色の利点としては、安価で菌種の推定や治療効果の判定ができとても有用であること。また、欠点として菌数に限界があり鏡検に熟練を要すること、難染色性のものがあり検出できない菌がいることをわかりやすく教えていただきました。グラム染色は基本的なことですがとても重要性があることを改めて感じました。

続いて「微生物検査技術とICMTの役割」と題して、国立精神・神経医療研究センター病院RAの望月規央主任技師より講義がありました。ICT、ICMTの役割や実

際の活動状況について教えていただきました。ICTの業務として院内感染発生状況の把握、教育・啓蒙、委員会への報告について実際の写真を交え説明していただきました。ICTの院内感染制御に対する役割は大きく、スムーズに実行するためには他部門スタッフとの連携やコミュニケーションがとても大切になってくると思いました。そして患者さんはもちろん病院で働くスタッフ全員のためでもあるということを感じました。ICTやICMTの名称は知っていてもどのような業務を行っているかわからなかったため、少しでも活動内容が理解できとても勉強になりました。

今後、細菌検査業務を行う際には今回研修で学んだことを参考に検査業務に役立てていきたいと思います。

最後に、講師の先生方ならびに今回このような研修会を企画して頂いた関信支部役員の皆様にお礼を申し上げます。



第 2 部医療関連感染・環境汚染について



NHO千葉医療センター

福 嶋 一 成

平成24年6月9日(土)、国立国際医療研究センターにおいて、平成24年度第1回国臨協関信支部主催研修会が開催されました。第2部は「医療関連感染・環境感染について」というテーマでNHO災害医療センターの感染管理認定看護師である妹尾正子副看護師長のご講演を拝聴させていただきました。

免疫の仕組みから始まり、医療関連感染・標準予防策・感染経路別疾患など、大変幅広くそして分かりやすくお話しをしていただきました。

そのなかで、私が印象に残っているのは「感染あり」の患者は氷山の一角であるというスライドでした。既知の感染症陽性検体のみならず、検査陰性を含めたすべての検体で未知の感染症が存在する可能性を考慮しなければならないという内容でした。われわれが業務を行う上においても、常に感染のリスクが存在する可能性を認識しなければならず、医療従事者として自己の身を守るという観点からも標準予防策を遵守するこ

との重要性を再認識させられました。

今回の研修会に参加させていただき、医療関連感染が発生する経緯や、それに対する予防や対策を具体的に説明していただきましたので、今後業務を行う際には、衛生的な手洗いやマスク・手袋などの防御用具の着用を必ず周知徹底したいと思います。

最後になりましたが、ご多忙の折、当研修会を企画し開催していただきました、国臨協関信支部の役員の皆様と講師の先生方に対しまして、この誌面をお借りして改めて感謝と御礼を申し上げます。



てんかんに関する臨床検査技師研修会に参加して



NHO横浜医療センター
大 畑 真 利

初夏の日差しを浴びて7月4日から西
新潟中央病院にて「てんかんに関する
臨床検査技師研修会」に参加しました。

募集人数15名よりも希望者が多く集まりましたが、施設側の配慮により全員が研修を受けることができました。

研修内容は、成人及び小児のてんかん基礎知識に始まり、皮質機能マッピング、外科治療と硬膜下記録、MEGと多岐に渡って講義を受けました。

その中で研修会初の試みとして、ワダテストのライブデモを研修できたことはとても有意義でした。また、抗てんかん薬を適切に服用しても効果の見られない患者、急速な発達遅延や退行の見られる患児には外科治療が施されるという講義内容には衝撃を受けました。

ルーチン業務では、検査を実施するばかりで波形から何

をどのように読み取るのか解りませんでしたが、診断の講義を受けて更に興味を抱きました。

そして、他施設の方々と意見交換を持てる時間があり、日頃から業務に携わっていて困っていることや運用についてアドバイスを求め、疑問に思っていたことが解決できて大変良い機会となりました。

今回の研修を通して学んだことで、改善できる内容はスタッフと協議しながら取り入れたいと考えています。

新潟の空はとても青く澄み渡り、お米も魚も野菜もとても美味しかったです。3日間の研修でご指導頂いた、笹川臨床研究部長、水島技師長をはじめ臨床検査科の方々、このような機会を与えて下さった当院、吉田技師長、臨床検査科の皆様にお礼申し上げます。



第31回国臨協OB会関信支部総会・懇親会に参加して

NHO高崎総合医療センター
野 田 岳

平成24年6月2日(土)アルカディア市ヶ谷にて、国立病院臨床検査技師協会OB会の関信支部総会および懇親会が開催されました。当日は、OB会会員の皆様および国臨協本部、関信支部、技師長協議会の代表参加を含め、総勢45名の出席があり、盛況となりました。会の開催に当たり、秦会長よりご挨拶があり、先の震災についてのお話と、被災されたOB会会員のためにお見舞い金の支援について披露されました。また、「本会は31回目を迎え、高齢化や、心身の具合を悪くしている会員が数多くみられる様になった。」との近況報告があり、「あらためて高齢化社会が進んでいると実感いたしました。」とのお話しがありました。しかしながら、「OB会は臨床検査に携わった、先輩、同僚、後輩の集まりであり、善き時代、悪しき時代をのり越えて来た仲間が懇親・交流を深める場として大いに発展させて行きたい。」と言う力強いお言葉がありました。懇親会は談笑あり、カラオケ大会あり、記念撮影ありと、筆者にとっては懐かしい顔、顔、顔ありで、現在の臨床検査室の礎を築いた方々とお話してできるのは、大変勉強になると共に、光栄に思った所であります。現在、

国立病院機構等を取り巻く環境には厳しい面も多々ありますが、だからこそ、時には先人の工夫やご意見を聞き、原点を見直すことも大切であると感じた次第です。

これからの、国臨協OB会関信支部会が益々のご発展するよう祈念いたします。

以下、平成24年度役員をご紹介します。

会 長	秦 政行	役員推薦委員長	国見 忠義
副 会 長	小原 千秋	" 委員	藤川 淳策
事務局長	宮野 勝秋	" 委員	石川 修子
会 計	岩村 義昭		(敬称略)
会計監査	渡辺 純夫		
"	佐藤 蓉子		



超音波検査士認定試験（消化器）に合格して



国立国際医療研究センター病院

佐 藤 晴 菜

以前から私は、臨床検査技師国家試験合格後の目標の一つに、超音波検査士の認定資格取得を考えておりました。国立病院採用後は日常業務の中で様々な検査の勉強を始めましたが、超音波検査士の受験のためにも日本超音波検査学会に入会して知識を深め、受験のチャンスを待ちました。

そして、2年前から生理検査業務を担当するようになり、実際の超音波検査に携わることになったのは今年の春頃からでした。学会に入会してから4年が経過し受験資格があったこと、当院で人間ドックの腹部超音波スクリーニング検査を行うには消化器領域の超音波認定資格が必要という事情が、資格の取得を夢みていた私にとって超音波検査士受験を決意させた最大の理由でした。

受験の準備では、提出する症例の所見整理がとても大変で自分の経験と知識の無さを痛感しました。しかし、同じ検査室で勤務する先輩技師の方や認定医の先

生にご指導お力添えをいただき、提出した症例は1回で受理されました。また短期間に色々な臨床症例に遭遇し、多くの経験を積むことができたことは、恵まれた環境であったと感謝しております。症例提出後は、直ぐに筆記試験に向けての勉強に集中しました。筆記試験に対して苦手意識が強かった私は、国臨協関信支部主催研修会の超音波検査士認定試験対策セミナー（消化器）での蓮尾茂幸先生の講義をはじめ、日本超音波検査学会や企業主催の勉強会にできる限り参加しました。その結果、超音波認定試験（消化器）に無事合格することができました。

私が無事に合格することができたのは、職場の皆様のご支援とご協力のおかげと思っています。資格取得にあたり、機会を与えてくださった技師長をはじめ、多くの関係者の方々にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。そして、今回このような投稿の機会を与えてくださった関信支部役員の皆様にも心より感謝しております。

今後も新たな技術習得に研鑽するとともに、得た知識を日々の業務に反映させていきたいと思っております。

超音波検査士認定試験（循環器）に合格して



NHO西埼玉中央病院

丸 山 陽 介

平成23年4月に民間病院を退職し国立病院機構に採用されて、まず1つの目標としていたのが超音波検査士（循環器）の認定取得でした。以前の病院では心臓超音波を3年ほど経験がありましたが、西埼玉中央病院に配属になってから症例を集め始めなければならず、提出期限までの約5ヶ月間の間に書ききれぬのかと不安でした。実際にも症例報告書作成直前に経験した症例も多くあり、ギリギリの状況でしたが、周囲の先輩技師の方々や、前任の心臓超音波担当していた方にも御指導頂き、なんとか提出することが出来ました。

試験勉強は主に勉強会への参加や、過去問を中心に行いました。実際に今まで経験したことのない疾患や、評価方法などその試験勉強を行うことによって実際のルーチンに活かすことのできる知識を得ることができ

たので、この勉強するきっかけとして試験を受けるという意味でも受験して良かったと思います。

試験日当日臨床問題が始まる際の説明で、まさかの発表がありました。「今年から試験問題の形式が変わります。」と。なんと従来形式であった組み合わせ問題から、全ての問題で1つ（ほとんど2つ）選べという消去法が使えない、まさに真に理解しているかを問われる大変厳しい問題でした。内容も過去問に比べると難しく思え、試験が終わった直後は、正直受かる気がしませんでした。

合格通知が来た時はうれしさというのもありましたが、それと同時に来年は別領域への挑戦という新たな目標も出来ました。それに向けてのスタートという意味でもありますので、気持ちを切り替えなければ、と思いました。

最後になりますが、この認定取得に受けるにあたり、ご指導、ご協力を頂いた周囲の皆様に、この場をお借りしまして深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

地区会だより

第27回 国臨協関信支部長野地区定期総会・研修会を終えて

NHO信州上田医療センター 杉 本 淳 一

平成24年6月23日（土）にNHO信州上田医療センターにおいて第27回国臨協関信支部長野地区会総会と研修会が開催されました。当日は22名の会員参加があり、来賓として、関信支部より金子事務局長のご出席を賜りました。

総会に先立って行なわれた研修会では、アボットジャパン株式会社 モレキュラー開発事業部 平岡学先生による「分子標的薬とコンパニオン診断薬について」のご講演を聴講しました。分子標的薬とコンパニオン診断薬の種類や働き、臨床現場での使用方法についてのお話があり、病理検査におけるHER-2タンパクやEGFR、K-ras遺伝子変異などの検出が、患者治療に大きな役割を担っているということや、コンパニオン診断薬の登場により、オーダーメイド治療が行えるだけではなく、新しい治療薬の開発から薬事承認までの期間が短縮されていることをご紹介いただきました。また最近では、非小細胞肺癌症例においてALKチロシンキナーゼ阻害剤である「クリゾチニブ」による腫瘍縮小効果および病態安定効果が示されており、治療に先立ちその転座を確認することは有用であるということをお話いただきました。病理分野が分子標的薬治療の分野に大きく羽を広げているのだな、ということを実感した講演でした。

研修会終了後、総会が開かれました。会長挨拶、来賓の金子事務局長挨拶、新人会員紹介の後、議事に入りました。東長野病院の御子柴技師長を議長に選出し、平成23年度経過報告、会計報告、平成24年度事業計画案、予算案が審議され、承認されました。最後に次期役員が選出され終了となりました。

総会に続いて、金子事務局長より、今年度の関信支部役員

紹介や、第40回関信支部学会開催の概要、研修会の開催予定、支部ニュースのHP掲載など、わかり易く解説していただきました。

その後、会場を7階レストランへ移し、恒例の懇親会が開催されました。会員相互の親睦・交流を目的に、楽しいひと時を過ごすことができました。

最後になりましたが、講演していただいた平岡先生、遠方より参加していただいた金子事務局長、準備・運営を行っていただいた地区会役員の皆様に心より感謝いたします。

平成24年度関信支部長野地区会役員

会長	中野	正直	(NHO小諸高原病院)
理事	古田	学	(NHO東長野病院)
理事	内川	正弘	(NHO信州上田医療センター)
理事	竹内	英規	(NHOまつもと医療センター松本病院)
理事	宮澤	寿幸	(NHOまつもと医療センター中信松本病院)



国臨協関信支部茨城地区定期総会・研修会を終えて

NHO水戸医療センター 鈴木 芳 明

平成23年度第32回国臨協関信支部茨城地区定期総会・研修会が平成24年6月23日（土）に日本原子力開発機構・東海研究開発センター・テクノ交流館リコッティにて、茨城地区会員39人中34名の出席ならびに上條臨床検査専門職、峰岸副支部長のご臨席を賜り、盛大に開催されました。

研修会は、大変興味深い講演を3人の先生から拝聴しました。日本ベクトン・ディッキンソン（株）の深水祐介先生からは「血液培養のベストプラクティスー血液培養の検出率アップを目指すー」と題したご講演で、日本では諸外国と比較して血液培養実施件数の少なさが問題視され、適切な血液培養検査の重要性と早期に抗菌薬を投与することが患者の生命予後に大変重要な事を改めて知りました。

茨城東病院研究検査科の加藤稔技師からは睡眠時無呼吸症候群について、病態・検査方法・治療法など詳しくご講演していただきました。

上條臨床検査専門職からは、①機構の現状と今後の運営方針②人材育成の現状と課題③他職種との連携などについて大変貴重なお話を戴きました。検査の質の向上が患者さんにとって有益となることを強く感じ、更なる自己研鑽をしていかなければと思った次第です。

茨城地区定期総会では、提出された平成23年度活動報告・平成24年度事業計画が承認され盛会のもと終了いたしました。

総会終了後に東海村の居酒屋で懇親会が行われました。水戸医療センター中島技師長の声高らかな乾杯の掛け声で始まり、日頃の仕事を忘れ和気藹々な雰囲気の中、「がんばっぺ！茨城」をスローガンに、地区会会員の団結力がより高まった懇親会でありました。

本年度は理事を仰せつかっていますので、海原会長を中心に茨城地区会を盛り立てていく所存です。皆様よろしく願いいたします。

最後ではありますが、遠方よりご講演・ご参加していただきました上條臨床検査専門職、峰岸副支部長には、この場をお借りし深く感謝申し上げます。

平成24年度関信支部茨城地区会役員

会 長	海原	桂一	(NHO霞ヶ浦医療センター)
副 会 長	中島	哲	(NHO水戸医療センター)
副 会 長	青木	貞男	(NHO茨城東病院)
事 務 局 長	岡村	治	(NHO霞ヶ浦医療センター)
理 事	鈴木	芳明	(NHO水戸医療センター)
理 事	大澤	俊之	(NHO霞ヶ浦医療センター)
理 事	塚原	忠	(NHO茨城東病院)
精度管理委員	水越	寛	(NHO水戸医療センター)
精度管理委員	阿部	浩	(NHO霞ヶ浦医療センター)
精度管理委員	小林	昌弘	(NHO茨城東病院)
会 計 監 査	佐藤	成彦	(NHO水戸医療センター)
会 計 監 査	此崎	寿美	(NHO茨城東病院)
役員推薦委員	椎名	將昭	(NHO茨城東病院)



地 区 会 だ よ り

国臨協関信支部千葉地区会定期総会・研修会を終えて

NHO千葉東病院 宇 野 敦 子

平成24年7月7日(土) NHO千葉医療センターにて、第31回国臨協関信支部千葉地区会総会および研修会が開催されました。当日は多数の会員参加のもと、関信ブロックより上條臨床検査専門職、関信支部より浅里支部長のご出席を頂きました。

研修会に先立ち、5月に亡くなられた故山田清春氏(元国立がん研究センター東病院臨床検査技師長)に黙祷を捧げました。研修会では国立国際医療センター国際医療協力局派遣協力課の野田信一郎先生に「PCMについて」と題してご講演頂きました。プロジェクトを効率よく遂行するためには発生した問題を正確に把握する必要がある。そのためには、一部ではなく全体を捉えることが大切であるというお話を聞き、広い視野を持つことは検査業務においても重要であり、心掛けなければいけないと思いました。

続いて上條臨床検査専門職の伝達講習ではNHOの現状、日本医師会精度管理調査報告、人事異動や新採用試験、主任候補者選考試験などのほかに、今年より開始される認定資格支援制度についてのお話を頂きました。お話の中で大量退職・採用の時代になってきているということを知り、人材育成や個々のスキルアップは重要な課題であると改めて感じさせられました。

定期総会は、平成23年度経過報告・会計報告・会計監査報告が承認され、続いて平成24年度事業方針・予算案・次期役員推薦案も承認され、終了しました。

その後、千葉駅側の居酒屋に会場を移し、懇親会が行われました。千葉港を見渡せたいへん眺めがよい会場だったのですが、当日はあいにく雨模様でちょっと残念でしたが、そこは千葉地区の若者パワーと笑顔で会は盛り上がり、会員相互の親睦を深め合うことができました。

最後に、野田先生、上條専門職、浅里支部長に心より御礼を申し上げます。

平成24年度関信支部千葉地区会役員

会 長	今村 ちさ (NHO下総精神医療センター)
副 会 長	久間 修平 (NHO下志津病院)
理 事	菊部 正宏 (国立がん研究センター東病院)
	浅川 和也 (NHO千葉医療センター)
	宇野 敦子 (NHO千葉東病院)
	只野 薫 (国立国際医療研究センター国府台病院)
会計監査	吉川 英一 (国立がん研究センター東病院)
	会田 春光 (NHO下総精神医療センター)



国臨協関信支部千葉地区会研修会「PCMについて」を聴講して

NHO下志津病院 松 岡 幸 恵

平成24年7月7日、国臨協関信支部千葉地区会研修会がNHO千葉医療センター大会議室で開催され、(独)国立国際医療研究センター国際医療協力局派遣協力課野田信一郎先生に「PCMについて」と題してご講演頂きました。

PCMとはProject Cycle Managementの略で開発支援プロジェクトの計画・実施・評価という一連のサイクルを「プロジェクト・デザイン・マトリックス (PDM)」と呼ばれるプロジェクト概要表を用いて運営管理する手法です。講演では問題の正確な把握の重要性や、プロジェクト関係者(計画者、実施者、受益者など)が多数参加し、意見を出し合い共通認識を持つことが計画達成につながることなど、PCMについて初心者にも分かりやすく教えて頂きました。

下志津病院では外来採血や代休などにより少人数の技師で複数業務を兼任しながら日々のルーチン検査を行っ

ているため、何か問題が発生した場合はスタッフ全員で意見を出し合い、問題解決に向け取り組んでおり、経験を共有するコミュニケーションが大切と言うお話はとても共感できました。今回、研修会に参加出来なかったスタッフにも研修内容を伝達し、PCM手法を活用したより良い臨床検査科を目指していきたいと思います。

最後にPCMについて分かり易くご講義いただいた野田先生をはじめ、研修会を企画開催して頂いた千葉地区会役員の皆様に感謝申し上げます。



地 区 会 だ よ り

千葉地区会文化活動兼歓迎会に参加して



国立国際医療研究センター国府台病院
北 原 沙衣子

平成24年5月12日（土）、千葉地区会主催の文化活動兼歓迎会が船橋市のサッポロビール千葉工場で行われました。ビール工場見学では、ビールの美味しさを追求したこだわりの麦芽と、出来たての鮮度を保つための製法等を教わり、最後に飲ませていただいた出来たてのビールは大変美味しく格別な味わいでした。

工場見学が終了し、隣の千葉ビール園で食べ放題のジンギスカンをお腹いっぱいいただきました。初めて参加する歓迎会なので少し緊張しましたが、ビール工場直送生ビールを飲みながら一緒に席になった方々とお話をしていくうちに、緊張も和らぎ歓迎会を楽しむことができました。諸先輩に連れられ多くの方にご挨拶

ををし、お話をさせていただきました。

また、たくさんの方々と交流ができ、他施設との繋がりを感じたとても有意義な時間を過ごすことができました。最後に、このような会を主催して頂きました千葉地区の皆様には深く感謝申し上げます。



症例検討会の症例公募について

— 症例検討会の症例呈示施設を公募いたします —

本年度の症例検討会は平成25年2月23日（土）に開催する予定です。症例を呈示していただける施設がございましたら、下記連絡先までお知らせください。なお、呈示症例につきましては、発表の有無および分野等の指定はありません。応募の締め切りは平成24年9月28日（金）とさせていただきます。

■連絡先 国立国際医療研究センター国府台病院 中央検査部
寺 戸 一 昭
電 話：047-372-3501（内3313）
E-mail：knterado@hospk.ncgm.go.jp

お 祝 い



この度、岩下浄明先生（前NHO埼玉病院 臨床検査技師長）におかれましては、福見秀雄賞（黒住医学研究振興財団）を受賞されました。心よりお祝い申し上げます。

人 事 異 動

【平成24年 6 月30日付 辞職者】

氏 名	旧施設名	旧職名
麻 生 透 榊	木 病 院	主任技師
長 谷 未 和	相 模 原 病 院	技 師

【平成24年 7 月 1 日付 配置換え】

氏 名	新施設名	新職名	旧施設名	旧職名
高 橋 邦 夫	榊 木 病 院	主任技師	信州上田医療センター	主任技師

【平成24年 7 月 1 日付 採用者】

氏 名	新施設名	新職名	旧施設名	旧職名
岡 林 舞	国立成育医療研究センター	技 師	国立国際医療研究センター病院	非常勤
中 江 真 莉 子	相 模 原 病 院	技 師	国立成育医療研究センター	非常勤
佐久間 悠 輔	信州上田医療センター	技 師	国立精神・神経医療研究センター病院	非常勤

編 集 後 記

ロンドンオリンピックが開幕、今年は30回の記念大会です。たくさんの競技がありますが、皆様はどのような競技に注目していますか。選手は厳しい練習を乗り越えて、代表を勝ち取ったことと思います。本番では練習の成果をいかに発揮して、大活躍してもらいたいです。関信支部学会も40回の節目となる記念学会となります。日頃の研究成果を披露していただき、活気あふれる学会になるよう役員一同、全力で準備に取り組んでいます。多くの皆様の参加を心よりお待ちしております。（広報 峰岸 正明）